

感 染 症 第 774号
令和7年（2025年）8月7日

公益社団法人 北海道獣医師会
会長 田村 豊 様

北海道保健福祉部長 古岡 昇

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に係る注意喚起について

本道における感染症対策の推進につきまして、日頃から格別の御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、この度、札幌市保健所管内で、道内初となる重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が発生しましたので情報提供させていただきます。

発症したネコやイヌの体液等からヒトが感染することも否定できないことから、SFTSを含めた動物由来感染症の感染を防ぐために、ネコ等を診察する際には、標準予防策を遵守していただくよう、臨床獣医師を始めとした関係者に、注意喚起をお願いします。

また、「病原体検出マニュアル(動物由来検体)重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス」につきまして、改めて貴会会員への周知を行っていただきますよう、御協力をお願いします。

記

<添付資料>

- ・北海道プレスリリース
- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生状況について
(令和7年8月7日付け厚生労働省健康生活衛生局感染症対策部感染症対策課事務連絡)
- ・病原体検出マニュアル(動物由来検体)重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス
(第1版 令和6年3月)

感染症係
担当：池田
TEL：011-231-4111 内線（25-518）

事 務 連 絡
令 和 7 年 8 月 7 日

各

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生状況について

国内での重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の報告数は、平成25年に報告されて以降増加し、近年では年間100例を超えています。これまでは、西日本を中心に報告されていたところですが、今般、北海道で初めてSFTSの症例が確認され、別添のとおり札幌市より公表しておりますので情報提供いたします。

北海道において症例が確認されたことから、今後は西日本に限らず他の地域においても患者が報告される可能性があります。また、SFTSに感染した場合には重症化することもあることから、発症後速やかに診断する必要があります。

SFTSは、ウイルスを保有するマダニに刺されることにより感染します。また、ウイルスに感染した犬や猫に咬まれたり、血液などの体液に直接触れたりすることで感染することも報告されています。

現在、マダニの活動が活発な時期であることから、貴職におかれましては、改めて、マダニに刺されないための予防措置について、下記参考の啓発ツール（ポスター等）の活用により住民に周知していただくようお願いいたします。

なお、同様の事務連絡を公益社団法人日本医師会及び公益社団法人日本獣医師会に発出しておりますことを申し添えます。

（参考1）感染症の特徴等について

■厚生労働省ホームページ

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou9/sfts_qa.html

■国立健康危機管理研究機構ホームページ

- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）（詳細版）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/sfts/010/index.html>

- ・感染症発生動向調査で届出られた SFTS 症例の概要（2025 年 4 月 30 日更新）

[https://id-](https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html)

[info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html](https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html)

（参考 2）啓発ツールや予防等について

■厚生労働省ホームページ

- ・ダニ媒介感染症啓発ツール

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

■国立健康危機管理研究機構ホームページ

- ・マダニ対策、今できること

https://www.niid.jihs.go.jp/content2/research_department/ent/20250404183820.html

（参考 3）医療機関における対応について

■厚生労働省ホームページ

- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診療の手引き 2024 年版

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001229138.pdf>

（参考 4）動物における対応について

■国立健康危機管理研究機構ホームページ

- ・病原体検出マニュアル（動物由来検体）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルス 令和 6 年 10 月第 2 版

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/manual/010/SFTS20240502.pdf>

- ・獣医療関係者の SFTS 発症動物対策について（2025 年バージョン）

https://www.niid.jihs.go.jp/content2/research_department/vet/animal-borne-2_2025-06-10.pdf

報道機関各社 様

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

8月6日、市内医療機関より、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生届の提出がありましたのでお知らせいたします。

SFTS 患者は主に西日本で報告があり、最近では関東地域でも患者発生が認められており、本件は、道内1例目の発生となります。

SFTS は、主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬(か)まれることで感染します。

そのため、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけて患者が多く発生します。

草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなどして、マダニに咬まれないようにしましょう。

また、SFTS ウイルスに感染・発病したネコやイヌから感染する事例も報告されていることから、体調不良の原因が明らかでないペットとの接触にも注意をしましょう。

1 概要**(1) 年代、性別等**

道央圏在住、60 歳代、男性

(2) 症状

発熱、頭痛、筋肉痛、下痢 等

(3) 感染地域

北海道内

(4) 感染経路

不明（行動歴に草刈りがあるが、日常的に草木に触れる機会があり、感染経路は不明）

(5) 経過

- ・ 7 月下旬 マダニに肩を咬まれていることに気づき、除去
- ・ 7 月 30 日 発熱、頭痛、筋肉痛等を発症
- ・ 8 月 2 日 地元の医療機関を受診（その後、札幌市内の医療機関に転院し入院）
- ・ 8 月 4 日 ダニの刺咬歴・臨床症状や血液検査所見などから、医師が重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を疑い札幌市保健所に連絡
- ・ 8 月 6 日 札幌市衛生研究所での検査の結果、SFTS ウイルス陽性と判明
医療機関が札幌市保健所に発生届を提出

※患者のプライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

2 発生状況

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
全国	111	116	134	120	120※
北海道	0	0	0	0	1

※令和7年7月27日までの報告件数（速報値）

3 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

別紙のとおり

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

1 主な症状等

- ・主に SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。
（マダニの SFTS ウイルス保有率は地域や季節によりますが、数%程度とされています。）
- ・潜伏期間は、6 日～2 週間程度です。
- ・主な症状は発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）であり、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。
- ・血液検査では、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められます。
- ・致死率は 10～30 パーセント程度です。

2 感染経路

- ・ウイルスを保有するマダニの刺咬（しこう）による感染が中心です。
- ・SFTS ウイルスに感染したペットのネコやイヌから人への感染例も報告されています。

3 予防方法

- ・マダニに咬まれないようにすることが重要です。
- ・草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダルのような肌を露出するようなものは避ける。）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・虫よけ（忌避剤）の併用も効果が期待されます。
- ・ペットがマダニに咬まれないためには、散歩後の体表チェックや目の細かい櫛をかけること、ペット用のダニ駆除剤の使用も効果的です。また、ペットに触ったら手を洗いましょう。

4 マダニに咬まれた際の対応について

- ・野外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ・マダニの咬着（咬みついたまま皮膚から離れない状態）が認められた場合は、無理に自分で引っ張ったりせずに、ただちに皮膚科などを受診し、マダニの頭部が残らないように除去してもらうことが重要です。
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、内科などで診察を受けてください。
- ・ペットにマダニの咬着が認められた場合は、獣医師に除去してもらってください。

5 その他

北海道内ではマダニが媒介する感染症として、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎、エボウイルスの患者が確認されています。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15 日程度	発熱、倦怠感、慢性遊走性紅斑 等
回帰熱	7～10 日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感 等
ダニ媒介脳炎	7～14 日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎 等
エボウイルス	4～9 日程度	発熱、発疹、関節痛、筋肉痛、頭痛 等